

## NPO 法人ワンダーポケット2016年度事業報告

### 【特定非営利活動に係る事業】

#### 1. 病気の子どもたちが良質な医療を受けるための環境整備に関する事業

(事業費 79,501 円)

##### ● 病院での出張イベントの企画・開催

##### (1) 『クリスマスイベント』の開催

開催日時：2016年12月20日(火)、21日(水)及び22日(木)

開催場所：東北大学病院、仙台市立病院、仙台赤十字病院及び国立病院機構仙台医療センター

対象者：入院中の0歳～小学生の子どもたち

対象者数：仙台市立病院 35名

東北大学病院 24名

仙台赤十字病院 49名

国立病院機構仙台医療センター 16名

概要： 仙台市立病院と東北大学病院、国立病院機構仙台医療センターにおいては、各病院のスタッフがサンタ隊として子どもたちにプレゼントを配布して下さることとなり、ワンポケではプレゼントを作成・ラッピングし、イベント当日に病院スタッフへお届けするところまでを担当した。

仙台赤十字病院においては、ワンポケのスタッフでもある病院スタッフがサンタクロースやツリー、トナカイの扮装をし、NICU と小児科病棟へ入院中の子どもたちへプレゼントを手渡した。また、小児科病棟では、病棟主催のクリスマス会に合流し、影絵の人形劇や影絵を使ったクイズコーナー、ダンスなどの企画やプレゼント配布を担当した。終了後、会には来られなかった子どもたちの病室を訪問し、ベッドサイドでプレゼントを手渡した。

配布したプレゼントはキャンディ・レイ(中身はビーズのアクセサリやミニリース、折り紙製の独楽、マグネット、ミニカー、風船など)、毛糸とフェルトで作った指人形、厚紙とフェルト製の写真立てなどで、その多くは例年同様ボランティアやスタッフの手で作られたものである。これらに加え、株式会社シーシー様よりご寄付いただいた歯ブラシや、寄付金で購入した文房具類もあわせてラッピングし、子どもたちの年齢に応じたプレゼントを配布した。

プレゼントの作成に協力して下さったボランティアは約20名以上と、多くの方々の協力のもとイベントを成功させることができた。

#### 2. 病気の子どもたちとその家族を支援するための事業

(事業費 781,112 円)

##### ● 宿泊施設“ラッコハウス”の管理運営

運営期間：2016年4月1日から2017年3月31日まで

利用日数：20泊(31日)

利用者数：延べ38人(延べ11家族)

概要： 2016年度は昨年度に比べ大幅に利用数が減少したが、12月以降においては新規利用者が連泊で利用することもあった。

東北大学病院では産科・NICU・小児科の各病棟、また、外来では小児科・歯科・形成外科にパンフレットを配備しラッコハウスについて随時紹

介してくださっているが、母親同士の情報交換など繋がりを求める方が多く、マクドナルドハウスの利用者が増加していることも利用者減少の要因として考えられる。また、これまで毎月のように利用されるご家族の利用が今年度に入り急になくなったのは病児の状態が安定したことも要因として考えられる。

利用者の方からは、お子さんの病状の急な変化や病院の混雑状況等により、直前に利用日やチェックイン時間の変更などの連絡が入ることもあったが、当ハウス近くに住むハウスマネージャーのご協力により、臨機応変な対応をすることができた。

#### ●病児の兄弟姉妹の交流会「きょうだいの会」の開催

開催趣旨： 重い病気を患うきょうだいをもつ子どもたちは、家族の配慮にもかかわらず、孤独感や不安を抱きやすいことが知られている。このような境遇にある子どもたちが大人のスタッフ・学生ボランティアと一緒にゲームをしたり、豊かな自然に触れたりすることで、ストレスを発散し孤独感や不安感を癒すことが出来る心の居場所となるような場を提供する。

開催回数：4回

参加者数：延べ22人（11家族の子ども）

概要：各開催概要は次のとおり

##### 第1回きょうだいの会

開催日時：2016年8月21日（日）

開催場所：宮城学院女子大学

参加者数：子ども3名 学生ボランティア2名  
一般ボランティア3名 スタッフ5名

概要： リオオリンピックと同時期の開催であったため、『ワンポケオリンピック』と題した運動会と、きょうだいの会責任者である足立智昭理事によるワークショップの二本立てで行った。

午前中は構内の体育館と広場を使って男女2チームに分かれ、ワンポケオリンピックを楽しんだ。体育館ではボール送り競争や水ヨーヨーの底に指令が書いてある借り物競争、バトンとなるアイテムがどんどん増えて行くリレー競争、相手チームのカゴを背負って逃げる玉入れ競争、最後に障害物競争を行った。また、屋外の広場では水鉄砲を使った的当て競争を行った。子どもたちは夏休み中ということもあり、友達に会う機会が少ない時期であったためか、きょうだいの会メンバーや学生ボランティアと思う存分からだを動かし楽しんでいる様子が見て取れた。

午後のワークショップでは『夢（将来の夢）』というテーマで紙粘土に色紙、モールや綿などをコラージュして作品を作った。具体的な職業について夢を抱いている子はどんどん手を動かしていたが、まだ明確ではない子どもにとっては少し難しいようだった。それでも「こういうのが作りたけれどどうしたらいいかな？」などとボランティアに相談しながらアドバイスをもらい最後まで仕上げていた。

おやつ時間は、アイスやホイップクリーム、フルーツやお菓子を各自好きなように盛り付けをしてパフェを作って食べた。その後も、閉会の時間まで体育館でバレーやドッチボールをして過ごした。今回初めて参加す

る子どもがいたが、みんなでからだを動かして遊ぶうちにすぐに溶けこみ笑顔を見せていた。

#### 第2回きょうだいの会

開催日時：2016年10月29日（土）

開催場所：仙台市営地下鉄（泉中央駅、長町南駅、広瀬通駅、薬師堂駅、国際センター駅）、八木山動物公園

参加者数：子ども3名 ジュニアボランティア1名  
学生ボランティア5名 スタッフ4名

概要： 『地下鉄を利用して探検ツアーに出かけよう』と題してお出かけ企画を開催した。子ども達の中には地下鉄に乗ったことがない子もあり、「楽しみにして来た」という声が多かった。学生ボランティアの携帯電話にスタッフからいくつかの指令を送り、子ども達は知恵を出し合いその指令を遂行して、最終目的地の八木山動物公園でスタッフと合流するという内容で行った。指令は、「参加者全員でプリクラを撮ろう」、「星空のトンネルがある駅で星座を探そう」、「〇〇駅のこの場所から写真を撮って送ろう」といったように、誰かが必ずわかる場所を指定し、子ども達がみんなと一緒に取り組めることを意識して作成した。子ども達はお互いに協力し合い、学生ボランティアにもヒントをもらいながら推理を楽しんでいるようだった。八木山動物公園内のシロクマの展示ブースをゴールとし、無事に全員揃ったところで昼食をとった。食後は子ども達のペースで自由に園内を見て回った。普段の企画よりも歩く距離が長かったにもかかわらず、子ども達は疲れた様子もなく最後まで笑顔をみせてくれた。

#### 第3回きょうだいの会（スペシャル）

開催日時：2017年1月28日（土）

開催場所：日立システムズホール仙台（青年文化センター）

参加者数：子ども5名（うち病児2名） ジュニアボランティア1名  
学生ボランティア4名  
ボランティア2名 スタッフ5名

概要： 日立システムズホール仙台のッキングルームとアトリエを借りて、料理企画とワークショップを行った。今回は2年に1度のスペシャルきょうだいの会として、病気の兄弟・姉妹も参加可能とした。午前中の料理企画では、一般ボランティア2名を先生として招き、ハンバーガーセットと午後のおやつ用にパウンドケーキ2種類を作った。先生方にあらかじめ、子どもたちが担当する作業と大人が行う作業を細かく分担し準備をしてもらっていたので、スムーズに進めることができた。

午後は宮城大学の学生ボランティアによる企画で、ちぎり絵と凧作りをして過ごした。ちぎり絵では用意された様々な材料の中から自分のお気に入りを見つけハガキとペン立てを作ったが、初めて参加した子どもの中には、「好きな材料を好きなだけ使って、自分だけの作品を作る」ということに慣れておらず、なかなか作業が進まない様子の子もいたため、学生ボランティアが丁寧に教え、アイディアを出し一緒に作ってくれていた。凧作りでは「空に浮かんだ時に目立つように」と、思い思いにデザインを考え、カラフルで個性豊かな作品が出来上がった。凧が完成すると台原森林公園へ出かけ、凧あげや散策、全員で長縄などをして楽しんだ。からだを動かした後は午前中に焼いたケーキを食べながら1日を振り返り、最後ま

で賑やかに楽しく過ごした。兄弟の参加があったメンバーは普段の活動の時とは違っていたずらを我慢したり兄弟に譲ったりするような場面も多く家庭での様子が垣間見られた。

#### 第4回きょうだいの会

開催日時：2017年3月25日（土）

開催場所：スターボウル名取店、仙台国際空港、イチゴワールド

参加者数：子ども5名 ジュニアボランティア2名 ボランティア2名  
スタッフ5名

概要：今年度2回目となる『おでかけ企画』はマイクロバスを利用し、子ども達の希望であったボウリングに加え、空港見学やいちご狩りを行った。午前中は名取市のボウリング場で3チームに分かれ2ゲーム行った。チームメイトがストライクを出すとみんなで喜び合い、ガーターを出すとみんなで悔しがり、仲間同士で楽しんでいる様子が見て取れた。その後、仙台国際空港へ移動し、展望台などを見学し昼食をとった。午後の活動は山元町でいちご狩りを楽しんだ。スタッフの方に美味しいいちごの見分け方を教えてもらい、それぞれ自由に採って食べてみると「甘い!」「美味しい!」と嬉しそうながあがっていた。いちごの大きさ比べや食べた個数を言い合ったりしながら、完熟のいちごととても美味しそうに食べていた。

参加者の中には高校生になったメンバーもあり、ジュニアボランティアとして参加してくれたが、小学生の子ども達に自然と気を配り、遊び相手となり成長した姿も見られた。帰りのバスの中では、今日の楽しかったことや次に行きたい場所などを話しながら最後まで賑やかに過ごした。久しぶりの参加のためかはじめは不安や緊張が強くみられた子もいたが、自分のペースでメンバーに話しかけ徐々に笑顔が多くなり、帰りには「また来たい」と言ってくれていた。

#### ●ボランティア感謝会の開催

開催日時：2017年2月26日（日）

開催場所：長町遊楽庵『びすた〜り』

開催趣旨：ワンポケの役員やスタッフが、各活動に携わったボランティアや協力団体、病院関係者などを招待し感謝を伝えるとともに、活動報告や情報交換の場とする。

概要：当法人の役員や運営委員が、この一年間にお世話になったボランティアや協力企業の方々、病院関係者の皆様などをお招きして食事をしながら交流し、日ごろの感謝を伝えた。各活動を紹介するスライドショー上映やじゃんけん大会も行い、和やかな雰囲気の中で、ワンポケの活動への思いを話し合った。

#### ●被災地における心や体のケアが必要となる子どもたちや、その周囲の支援者への支援

開催回数：4回

対象者：保育士・保健師・小学校教諭・NPO スタッフ

参加者数：延べ76名

概要：震災後、多動で落ち着きのない子どもが保育所などで多数報告されている。これらの子どもたちの中には発達障がい疑われている幼児もいるが、震災や虐待によるトラウマ反応として多動や落ち着きのない行動を示す幼児も少なくない。小講義において、これらの幼児のアセスメントや対応について解

説し、個々の事例に対してもスーパーバイズを行った。

第1回

開催日時：2016年10月24日（月）

開催場所：気仙沼市健康管理センター

参加者数：26名

第2回

開催日時：2016年11月25日（金）

開催場所：大崎市長岡小学校

参加者数：30名

第3回

開催日時：2017年3月13日（月）

開催場所：名取市保健センター

参加者数：18名

第4回

開催日時：2017年3月29日（水）

開催場所：石巻 social academy 寺子屋

参加者数：11名

### 3. 病気の子どもたちの権利を擁護する事業

病気の子どもの権利を擁護する事業は、2016年度は実施しなかった。

### 4. ボランティアを育成するための研修プログラムの提供事業（事業費 6,505 円）

#### ● ボランティア・スキルアップ講習会の開催

開催日時：2016年11月20日（日）

開催場所：宮城県立こども病院 愛子ホール

開催趣旨：病院の小児病棟などで活動をしているボランティアの方々やこれから病院ボランティア活動を志す方々、保育士や学校教育に携わる方々など幅広く子どもに寄り添う人々を対象に、子どもを取り巻く社会環境の問題点を抽出し、共通理解を深める。ボランティアの質の向上、モチベーションの維持を目指し、活動意義や活動内容に伴う知識を習得する。また、ワンダーポケットの活動を一般の方たちに理解していただく場所として企画・開催し、ワンダーポケットの活動のための組織強化を図ると共に、ボランティア同士の情報交換の場とする。

講義内容：『小児慢性疾患児の発達と支援』

講師：足立 智昭先生

受講者数：約50名

概要：昨年度に引き続き、宮城県立こども病院との共催でボランティア・スキルアップ講習会を開催した。当法人の足立理事を講師として、近年の医療の進歩によって進行を遅らせたり、病状をコントロールすることが可能となってきたが、「医療の進歩」イコール「難病の子ども達が普通の生活を手に入れた」わけではなく、むしろ長期にわたって心身共に大きな負担となり、本人と家族の生活に大きな影響を及ぼしていること、難病の子ども達と家族が抱える心理社会的課題について解説し、実際の経験やケースを交えて援助の方法についてお話しいただいた。

受講者アンケートには「小児慢性疾患児やその家族の気持ちや抱えるストレスについて理解することが出来ました。」「足立先生ご自身の経験など、他では聞くことのできない内容だったのでとても勉強になりました。」「患児はもちろんですが保護者が抱えるストレスが想像以上に大きくショックを受け、考えさせられました。少しでも役に立つ援助が出来るように勉強しなければならぬと思いました。」「説明がとても分かりやすく、心に残りました。」など、アンケートを提出したすべての方々から感想を書いていただき、今回のテーマへの関心の高さを感じた。

●ワンダーポケット「きょうだいの会」勉強会

開催日時：2016年6月17日（金）

開催場所：宮城大学構内

開催趣旨：きょうだいの会に参加する学生ボランティアを対象に「きょうだい」を取り巻く家庭環境の問題点を抽出し、共通理解を深める。ボランティアの質の向上、モチベーションの維持を目指し、活動意義や活動内容に伴う知識を習得する。また、ワンダーポケット及びきょうだいの会の活動を学生たちに理解していただく場所として企画・開催し、ワンダーポケットの活動のための組織強化を図ると共に、ボランティア同士の情報交換の場とする。

講師：足立 智昭先生

受講者数：約10名

概要：きょうだいの会責任者の足立先生を講師として、宮城大学の学生ボランティアを対象に「きょうだい」の心の状況、「きょうだい」に必要な心のケアとはどんなものかについてお話しいただいた。そのうえで、きょうだいの会が目指すところや、どのような活動が望まれているかについて理解してもらう場となった。学生からは多くの質問が寄せられ、関心の高さがうかがえた。

●ワンダーポケットの活動を通じたボランティアの育成・支援

活動事業：総会、ボランティア講習会、クリスマスイベントなど

従事者数：延130人

概要：ワンダーポケットが主催したイベントの際には、宮城大学の学生をはじめ、一般のボランティア希望者へメールやブログ・フェイスブック等を通して呼びかけを行い、ボランティア活動の場を提供した。各イベント後には成果や反省点等を共有する機会を持ち、継続的なボランティアの育成を図った。

5. この法人の活動に関する一般社会の理解をより深めるための広報、啓発事業

（事業費 94,053 円）

●ホームページ、ブログ「ラッコのしっぽ」、フェイスブックの継続

ホームページやブログをイベント開催前や終了時を中心に随時更新するとともに、ワンダーポケットのフェイスブックも併用し、外部への情報公開や会員・支援団体への活動状況報告、ならびに各イベントやボランティア作業への参加呼びかけのツールとして活用した。

●ワンダーポケット通信の発行

発行回数：2回

発行部数：各150部

概要： ワンダーポケットの活動状況を、会員やこれまで様々な形で活動を支援してくださっている方々に知らせていくため、ワンダーポケット通信 Vol.29および Vol.30を発行した。Vol.29では 2015年度後半の活動報告を行い、Vol.30は 2016年度前半の活動を報告する内容となっている。

●法人のこれまでのあゆみを振り返り、今後の活動について語り合う座談会

開催日時：2016年6月19日（日）

開催場所：宮城県立こども病院 愛子ホール

テーマ：『病気のこどもや家族のために～ワンダーポケット12年のあゆみとこれから～』

参加人数：約40名

概要： 設立から12年間の活動をまとめた『12年のあゆみ』の発行を記念して、設立の経緯や想い、これまでの活動と今後の課題や希望など5名の理事を中心にトークセッションを行った。後半は参加者から質問や感想を発表してもらい、ご家族や地域の方々との交流の場となった。

●JHHH ネットワーク会議への参加

開催日時：2016年8月6日（土）

開催場所：国立がん研究センター

参加人数：2名（運営委員・事務局 各1名）

概要： 全国の病児と家族のための滞在施設を運営する団体が集まる JHHH（日本ホスピタル・ホスピタリティ・ハウス）ネットワーク会議に参加した。会議の前半では、在宅医療を中心とする子どもたちが地域の中で安心して医療を受けながら子どもらしい生活と寛ぐひと時を過ごせるよう様々な医療ケアに対応している医療型短期入所施設「もみじの家」の紹介があった。また、分科会では「英国小児ホスピスに学ぶコミュニケーション」というテーマでハウス利用者とのコミュニケーションについて学んだ。また、ハウススタッフの悩みを交換しあい、講師よりアドバイスをいただいた。

●法人紹介リーフレットおよびラッコハウス案内リーフレットを改訂  
実施出来なかったため、来年度実施することとする。

●『ボランティア・スキルアップ講習会』の会場において書籍の展示・販売を行う  
病気の子どもに関する書籍の展示・販売は、2016年度は実施しなかった。

**6. その目的を達成するために必要な事業** **（事業費 0円）**

●『ワンダーポケット』の組織強化活動

（1）新規会員募集活動の実施

ボランティア・スキルアップ講習会や座談会の開催の場を活用して新規会員を募ったほか、「12年のあゆみ」を利用して役員や運営委員からも周囲へ会員募集の声が

けを行った。その結果5名が新たに会員となった。

(2) 現在の会員数の状況

2017年度3月末時点の全会員数は87名で、その内訳は一般会員70名、学生会員1名、賛助会員16名(うち団体5)となっている。また会費の未納者は13名で未納額は39,000円である。

なお、2016年度は6名が退会した。

●会議の開催

(1) 理事会の開催

①開催日時；2016年5月31日(火)

開催場所；仙つかき徳

議 題；総会に付議すべき事項について

②開催日時；2016年6月19日(日)

開催場所；宮城県立こども病院 愛子ホール

議 題；役員の選任について

(2) 総会の開催

開催日時；2016年6月19日(日)

開催場所；宮城県立こども病院 愛子ホール

議 題；2015年度事業報告及び決算報告

2016年度事業計画案及び予算案

役員の選任について

●事務局の運営等

(1) 事務局員(2名)

(2) 運営委員会の開催 計5回

(3) 実行委員会の開催 計8回

【その他の事業】

その他の事業(物品の販売事業及びチャリティー事業)は、2016年度は実施しなかった。